

20m120発表記録

指導案準備①



会議中

制御を要求



退出



Microsoft Word document titled "教員m第12回指導案.docx". The document is in Japanese and contains a lesson plan for a chemistry class. The content includes sections for "教材観" (Textbook View), "生徒観" (Student View), "指導観" (Instruction View), and "単元の評価規準" (Unit Evaluation Standards). It also includes a table for "単元の評価規準" and a table for "本時の指導過程" (Lesson Process).

6. 教材観
授業で使用する教科書を用いる。

7. 生徒観
初めて熱化学について学ぶため、理解が難しい生徒もいる。

8. 指導観
理解に苦勞する生徒が多くいる可能性もあるため、最初は簡単な例を用いて全体像を説明する。そしてその後、演習の時間を設けることで定着を図る。

9. 単元の評価規準

主体的に学習に取り組む態度	思考・判断・表現	知識・技能
演習の際に真剣に取り組んでいるかどうか	演習で解いた問題の答えにおいて、論理的に考えられているかどうか	問題の解答率および正答率

10. 本時の題目 熱化学方程式

11. 本時の目標
熱化学方程式を自分で作る

12. 本時の指導過程

学習内容	指導過程・学習活動	指導上の留意点・評価
(導入) (20分)	○熱化学方程式とはどのようなものなのか、そして熱化学方程式を立てる上で注意すべきことを説明する。 ・熱化学方程式の作り方を説明する ①化学反応式を書く ②着目する物質の係数を1にする ③右辺に反応熱を書き加え、矢印を等号に変える ④物質の状態などを書き加える	○初めて学ぶことなので、ゆっくりと説明を進める。 ○反応熱の正負についての説明をする

村

鮎

橋

野

山

清

東

水

各班ワークシート (模擬授業指導案準備)

班で討議したことを書くこと (指導案の要約ではない)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (熱化学方程式)

■学年・単元・本時の内容 (提示する教材)

高校2年生 化学

熱化学

熱化学方程式の立式
エネルギー図の理解

■目標・内容・指導の概略等

目標: 熱化学方程式を作ることによって
エネルギーの変化について理解する

内容: 熱化学方程式の作り方を説明
エネルギー図を用いて、エネルギー
の変化を説明
問題演習 → 答案確認
まとめとして、授業の復習

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

自分の説明では、化学 (高校専門) になった
の授業を取り上げました。自分自身高校
の化学の免許を取ったこと思っているため、
模擬授業として取り組みのつもりで受けた
です。

2*) 今日の授業で、ポイントと思ったことをのべよ。

今日の授業のポイントは、熱化学を
初めて学ぶ人でも理解できるように
丁寧なプロセスをとっているということです。

■教材・板書計画、評価の観点・規準等

教材: 高等学校理科用 化学

・スクリーン、タブレットを用いる

板書について: 事前に説明・演習問題
の解説についてのスライドも
作っておき、スクリーンに表示
することで板書で済ませる。

評価について: 態度… 演習の取り組み具合
思考表… 演習の答案を、論理的に
検討しているかどうか。
知識技能… 問題の解答率及び正確率

■工夫した点、出典等

エネルギー図の動きも説明すること
熱化学全体の理解について、初級の
化学にも使われていることと教える
ため、取り入れたこと。また、タ
ブレットを使うことで、ICT教育に慣れる
とともに、ペーパー化を促す
ことまでできただけ、良い思い入れ
がありました。

出典: 化学の教科書、エネルギー図

4*) 今日の授業のキーワードのうち、班別討議、全体発表での自分自身の発言に用いたものを3つ取り上げ、説明せよ。

- ・ 熱化学方程式
- ・ 演習
- ・ タブレット

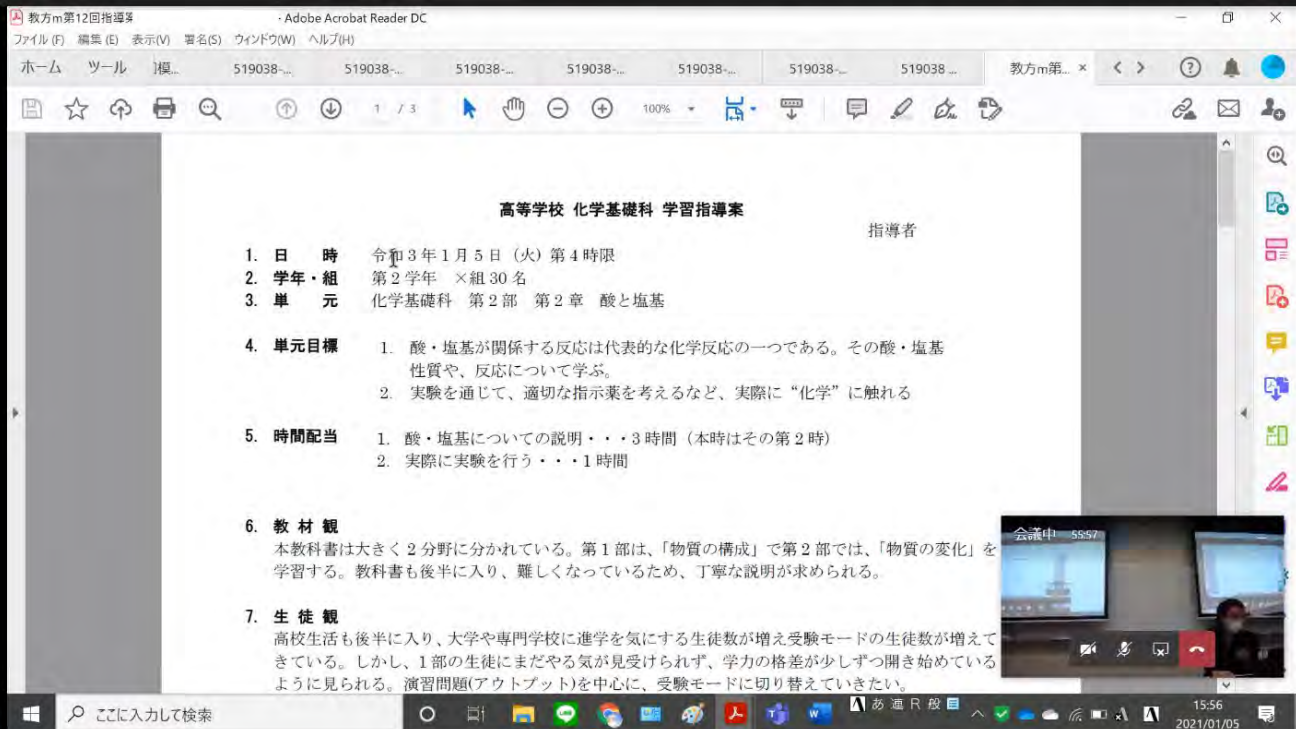
熱化学方程式の説明をした後、タブレットを
用いて演習に取り組みさせて、ICT
教育にもむかっていること、かつ演習にしっかりと
取り組みことで能力を上げるということが
良いと感じた。

指導案準備②



會議中

制御を要求

 退出

鮎

野

山

橋

清

東

藤

水

各班ワークシート (模擬授業指導案準備)

班で討議したことを書くこと (指導案の要約ではない)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (学習指導案)

■学年・単元・本時の内容 (提示する教材)

高校2年 化学基礎 第2部 第2章 "酸と塩基"

教科書 ② 水の電離性とpH

{ 水素イオン濃度 $[H^+]$ を求め、pHの値を求めらる。
適切な指示薬を選ばる。

■目標、内容・指導の概略等

→ 目標、及び内容

指導の概略として、

各章が終わると概念図の記入を求め、アットマークや各語句の関連付けを行う。

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

■ Google forms や ~~team~~ class room を利用して質問を置く。

2*) 今日の授業で、ポイントと思ったことをのべよ。

■ 指導課程では教員からの質問、それに対する生徒からの返事と覚えておいて。(2~3回)

■教材・板書計画、評価の観点・規準等

教科書, 補助プリント, ノート, インターネットに接続可能な媒体

演習は同班の友達と協力しても良い

→ テストは1人1人で行う。

テストは「問-答」にするのではなく、「記述式で行い、過程」を重視する

■工夫した点、出典等

演習は同班の人と協力して良い

→ 教員側としてさらに理解を深める。

ICTを用いて、質問を減らす。

4*) 今日の授業のキーワードのうち、班別討議、全体発表での自分自身の発言に用いたものを3つ取り上げ、説明せよ。

■

・
・
・

指導案準備③



会議中

制御を要求



退出



Microsoft Word document titled "中学校理科科学指導案" (Middle School Science Lesson Plan). The document is in Japanese and contains a detailed lesson plan for a science class. The plan includes sections for "単元目標" (Unit Objectives), "時間配当" (Time Allocation), "教材観" (Textbook View), "生徒観" (Student View), "指導観" (Instruction View), and "単元の評価規準" (Unit Evaluation Standards). The document is displayed in a window with a blue title bar and a standard Word ribbon interface.

1. 単元目標

1. 身近な気象の観察、観測から気象要素と天気の変化の関係を理解する。
2. 気象現象について、起こる仕組みと規則性を理解する。
3. 日本での天気の特徴をとらえる。

2. 時間配当

1. 空気中の水の変化・・・2時間（本時はその第1時）
2. 天気の変化と大気の動き・・・8時間
3. 大気の動きと日本の四季・・・2時間
4. まとめ・・・2時間

3. 教材観

「未来へひろがるサイエンス 2」（新興出版社啓林館）では、身近な現象から、四季などの大きな現象につなげていくことを重視したつくりになっている。また実験や実例の紹介などが多く、生徒の興味や関心を引くことに連なっている教材である。

4. 生徒観

5. 指導観

地球に関する指導では、単元の原理を個別に捉えるのではなく、連続的にすべての事象がつながっていくことを念頭において、伝える必要がある。本時では、天気や季節といった事象とは切り離すことのできない雲という存在について、雲と気圧や大気との関わりを中心に理解させることをめざしている。

6. 単元の評価規準

主体的に学習に取り組む態度	思考・判断・表現	知識・技能
・地球で起こる現象について、関心をもち意欲的に知識を得ようとしている。	・天気の変化や大気の移動について、どうしてそうなるのかという原理を基にして判断している。	・雲や霧などの現象を気圧や水蒸気という言葉を用いて説明することが出来る。 ・天気や四季について、気温や

鮎

野

山

橋

清

藤

水

東

各班ワークシート(模擬授業指導案準備)

班で討議したことを書くこと(指導案の要約ではない)

1) (班内) まとめ

班のテーマ(ICT活用, 理科)

■学年・単元・本時の内容(提示する教材)

中学2年

地球

空気中の水の変化(教科書)

■目標・内容・指導の概略等

対話形式で書く。(内容が分かりやすい)
(人による)

まとめの確認に演習や、小テストを
行う方がいいのか考える。

挙手制で意欲、態度の確認を取り入れて
も良いと思った。

2) 全体発表(模擬授業)を聞いて、自分の班の取
り組みについて感じたことをのべよ。

■ Aタブレットに書いて提出する以外にも、プリントを
カメラで取って送信するという方法がある。
7"タブレットなどを使えば、確認が
容易にできる。

2*) 今日の授業で、ポイントと思ったことをのべ
よ。

■ 覚え量だけでなく、単元の難易度も
考慮して、時間設定を行う。

ICTが広まっているので生徒1人に1台が
しつと浸っている所もある。

数学と理科ではICTの使い方が異なる。

■教材・板書計画、評価の観点・規準等

行う授業内容に合わせて、評価の
観点を置く。

教材用の動画サイトなどを活用していて、
板書計画について考えておく。

■工夫した点、出典等

一方向的な講義形式だけでなく、
生徒の意見を出せるような授業の方が
良いのか考える。

4*) 今日の授業のキーワードのうち、班別討議、全
体発表での自分自身の発言に用いたものを3つ取
り上げ、説明せよ。

■

.

指導案準備④

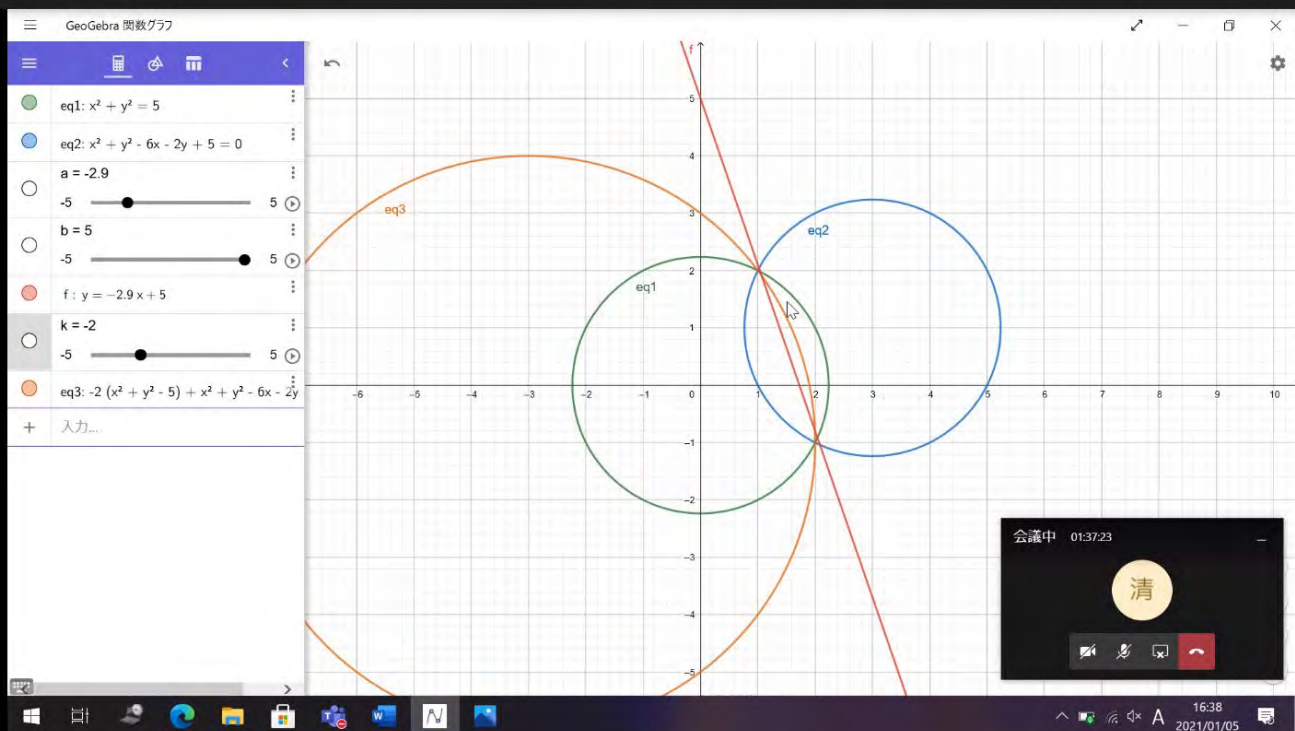


会議中

制御を要求



退出



村

鮎

野

橋

藤

水

東

清

各班ワークシート (模擬授業指導案準備)

班で討議したことを書くこと (指導案の要約ではない)

1) (班内) まとめ

班のテーマ (2つの円の共有点)

■学年・単元・本時の内容 (提示する教材)

高校 2年

単元: 図形と方程式

本時の内容

2つの円の共有点

(教科書の図をICTを用いてより深く理解する。)

■目標、内容・指導の概略等

目標

- ・ 2つの円の共有点の座標を求める
- ・ 2つの円の共有点を使った発展的な問題も考えることができる。

指導

- ・ 解説 から入るのではなく、まず生徒自身で考える
- ・ ICTを使って式と図形を結びつけた

2) 全体発表 (模擬授業) を聞いて、自分の班の取り組みについて感じたことをのべよ。

■ 理科のICT活用方法と数学の活用方法では少し使い方が違うということがわかった。

2*) 今日の授業で、ポイントと思ったことをのべよ。

■ 指導案の準備は早めに行い、

質問などは早めに 実習担当の先生に聞くことで、余裕を持てる上、しっかりしたアドバイスもらえることが多い

■教材・板書計画、評価の観点・規準等

・ 教材 … 教科書、タブレット端末

・ 板書 … 図、式および計算過程

図についてはICTによるものを主に活用する

- ・ 評価 … 式と図形を結びつけ考えている
- ・ ICTを使いながら図形の性質と結びつけ考えている。
- ・ 計算過程を理解し、手順を把握している。

■工夫した点、出典等

・ ICT活用によって、問題文にはない値を試して代入してみる等の事を行い、より深い理解が得られるようにする。

・ 出典

大阪府教育センター 数学科学習指導案

4*) 今日の授業のキーワードのうち、班別討議、全体発表での自分自身の発言に用いたものを3つ取り上げ、説明せよ。

■

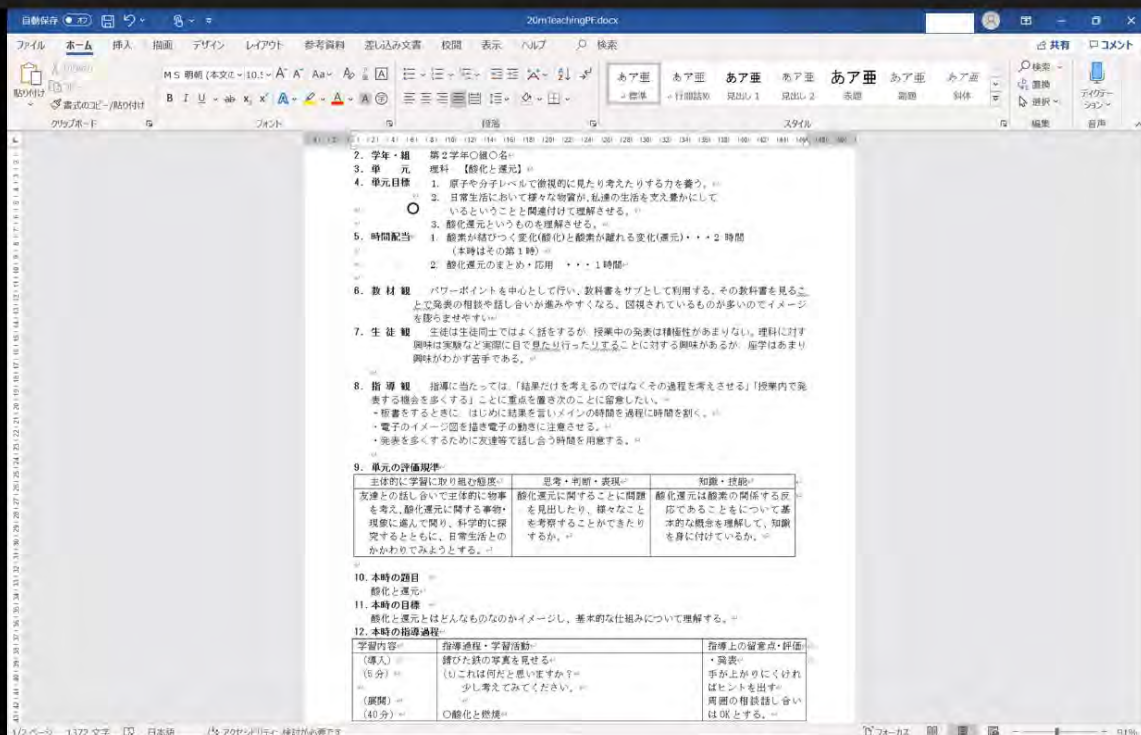
- ・ 外発的動機づけ
- ・ 共有点
- ・ 連立方程式

指導案準備⑤



會議中

制御を要求



野

確認問題11



會議中

制御を要求

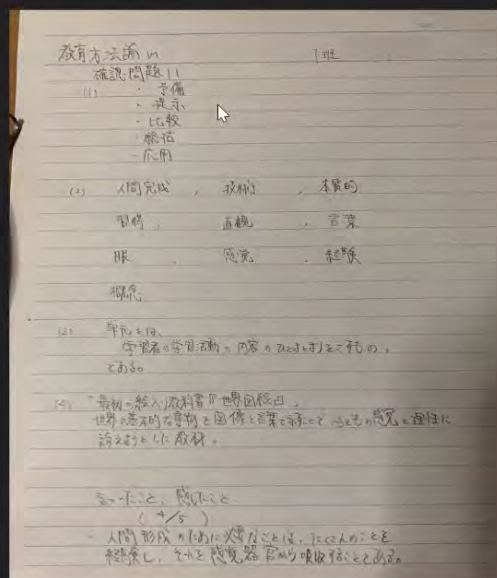
 退出

フォト-教方_確認問題11.jpg

 すべての写真を見る  追加先



✂ 編集と作成



🔍 ここに入力して検索



16:55
2021/01/05

筭

村

鮎

橋

水

東

清

野

各班ワークシート (確認問題まとめ)

1) (班内) まとめ

各問のポイント

■問1

ヘルバルト派のラインが展開した「5段階教授法」の5段階を挙げよ。

- ・予備
- ・提示
- ・比較
- ・総括
- ・応用

■問2

次の「近代教授原理の確立」に関する文章の空欄を埋めよ。

人間完成, 技術, 本質的
習得, 直観, 言葉
眼, 感覚, 経験
概念

2) 問題全体を通して見て、全体のポイントと
思ったことをのべよ。

■
教育を段階的に行うことで、
教える側と教られる側は今なにを
しているかを理解しやすくなるため
「5段階教授法」や「プロジェクト」は
良いと思った。

2*) 問題全体を通して見て、気づいたことをのべ
よ。

■
やはり言葉だけでどうと説明するよりは、
眼で見たり、実際に触れたりすることで
理解が早くなると感じた。

■問3

单元について、簡潔に説明せよ。

单元とは、

学習者の学習活動の内容の
ひとつまりをさすもの。

■問4

「最初の絵入教科書『世界図絵』」
・世界の基本的な事物を図像と言葉で表すことで
子どもの感覚と理性に訴えようとした教材。

「プロジェクトメソッド」
キルパトリックによって定式化された、单元展開を「目的設定」
「計画立案」「実行」「判断(評価)」という一連の過程で
考える。問題解決学習をより具現化したこと。

「教育の現代化運動」

1960年代にアメリカ、日本、旧ソ連などで展開され、
初等・中等教育における数学や自然科学などの
教育内容を科学・技術革新の時代的要求に
応じて根本的に改造すること。

2**) 確認問題に取り組んでみて、確認問題に取り
組む時間や、問題内容と発表班との関係などにつ
いて、気づいたこと、感じたことをのべよ。

■

・人間形成のために必要なことは、

たくさんのことと経験し、それを
感覚器官から吸収することである。